
失恋

ゆづる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

失恋

【Nコード】

N4046G

【作者名】

ゆづる

【あらすじ】

同級生に恋する、ちょっとおかしな小学生。くだらない作品なので、気軽に、息抜きにでも。

同じクラスの松木理名。僕は彼女に恋をしている。

小さな体に緩くウェーブがかかった長い髪の微かな芳香がたまらない。

大きな瞳の上の長い睫が動いたとき、僕の心はぐるぐるかき混ぜられて体温が2度ほど上がる。

話しかけられると頭がくらくら、ふわふわして、呂律が回らなくなる。

彼女はそれだけ蠱惑的な麻薬で、僕の健全だったはずの精神は日に日に蝕まれていくようだ。

要するに、僕は彼女を好きすぎてちょっとヤバい人間になりつつある。

『やっぱりさ、どんな可愛い女の子にでも幻滅する事ってあるよな。百年の恋も醒める瞬間、とかさ』

友人が話していた。僕には到底理解できない話だ。彼女への恋から醒めるなんて。

例えば彼女がどんなに性格が悪くても、あの可愛い顔に酷い火傷を負ったとしても。僕の恋心が無くなるなんて、あり得ない。僕は彼女に、どっぶり、どうしようもないくらいハマってしまったのだから。

いつもの帰り道、赤く染まる河川敷に松木理名が居た。遠目で、後ろ姿だけど、僕にはすぐに彼女だと分かってしまう。彼女はしゃがんで、何かしているようだ。

気付かれないように近づく。彼女との距離が縮まる程、胸がばくばく煩く鳴った。その鼓動でさえ愛おしくて、僕は幸せな気分になった。

ゆっくり、慎重に足を進めていたのに、僕の出来損ないの右足が小枝を踏んでぱきりと音が鳴った。

松木理名が振り返る。

天使の笑顔で、僕を見た。

「あ、健太くん」

天使の声で僕を呼ぶ。もう、死んでもいいかもしれない。実際、心臓は張り裂けてしまいそうで、僕はもう限界だ。

さようなら。

ふと、彼女の手元を見た。

鮎のような魚がぴちぴちと瑞々しさを振りまいていて、お腹からは内臓が出ていた。

松木理名が微笑む。良く見ると、綺麗な弧を描く口元が濡れて艶めいていた。

「健太くんも食べる？」

首を可愛く傾げる彼女。

「……いや、ぼ、僕はいいよ」

思わず、足早に立ち去った。僕の彼女への対応はいつもと変わらない。

でも、気持ちは大きく変わっていた。いつもは恥ずかしくて避けてしまつて、いつまでも熱い気持ちを持て余すのに、今は不思議なほど冷めてしまっていた。

百年どころか、小学校の入学式で一目惚れしてから四年そこらの恋は、一瞬で、ドライアイスみたいに気化してなくなってしまったみたいだ。

こんな些細な事で彼女への恋を失ってしまうなんて、なんて薄情なんだろう。

僕は自分に失望しながらも、少し大人になった気がした。

了

（後書き）

くだらない話で申し訳ございません。個人的には気に入っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4046g/>

失恋

2011年1月16日01時13分発行